

安来市と島根大学が「安来市に所在する遺跡に関する連携研究覚書」を締結し、石棺式石室（飯梨穴神古墳）の発掘調査を実施

安来市と島根大学は平成25年にまちづくりなどに関する包括連携協定を締結しており、この協定に基づき、安来市教育委員会と島根大学法文学部で本年8月に「遺跡に関する連携研究覚書」を締結しました。

その具体的な取り組みとして、安来市が実施する飯梨穴神古墳の発掘調査に島根大学が考古学技術実習の一環として参画します。

1. 遺跡の概要

安来平野の中央を流れる飯梨川の西岸は、弥生時代の終わりから古墳時代の終わりまで、出雲東部の首長墓の時代ごとの特徴をもった墳墓を造り続けられた地域です。

飯梨穴神古墳（いいなしあながみこふん）は、安来平野の西にそびえる車山の麓、安来市田頼町162番地に所在する古墳です。

古くからの開墾によって墳丘のほとんどが失われ、平成7年に石棺式石室（せっかんしきせきしつ）が露出した状態で発見されました。

石棺式石室は古墳時代終わり頃における出雲東部の首長墓に採用された地域性の強い埋葬施設で、壁や床、天井を1枚の板状の切石を組み合わせで造られています。

周辺には、埋葬施設が石棺式石室である国指定史跡の飯梨岩舟古墳、市指定文化財の塩津神社古墳や横穴墓（斜面をくり抜いた埋葬施設）にも関わらず大首長墓なみの副葬品が出土した鷲の湯病院跡横穴墓などが分布しています。

2. 発掘調査

①昨年度の調査 令和7年10月～令和8年3月

- ・石室を中心に墳端が想定される4方向に試掘坑を掘り、落ち込みを確認しました。
- ・出雲型子持壺や須恵器甕の破片が出土しました。

②今回の調査期間 令和8年8月17日～10月（報告書作成等は令和9年度まで） （学生参加） 8月24日～9月末

③調査のねらい

- ・墳丘の形状や規模、築造年代を明らかにし、安来市はもとより古代出雲社会像の一端を解明するとともに、遺跡の着実な保存につなげてまいります。
- ・島根大学法文学部岩本崇准教授をはじめとする研究者の参画により調査の質を高めるとともに、学生の参加により地域人材の育成につなげます。

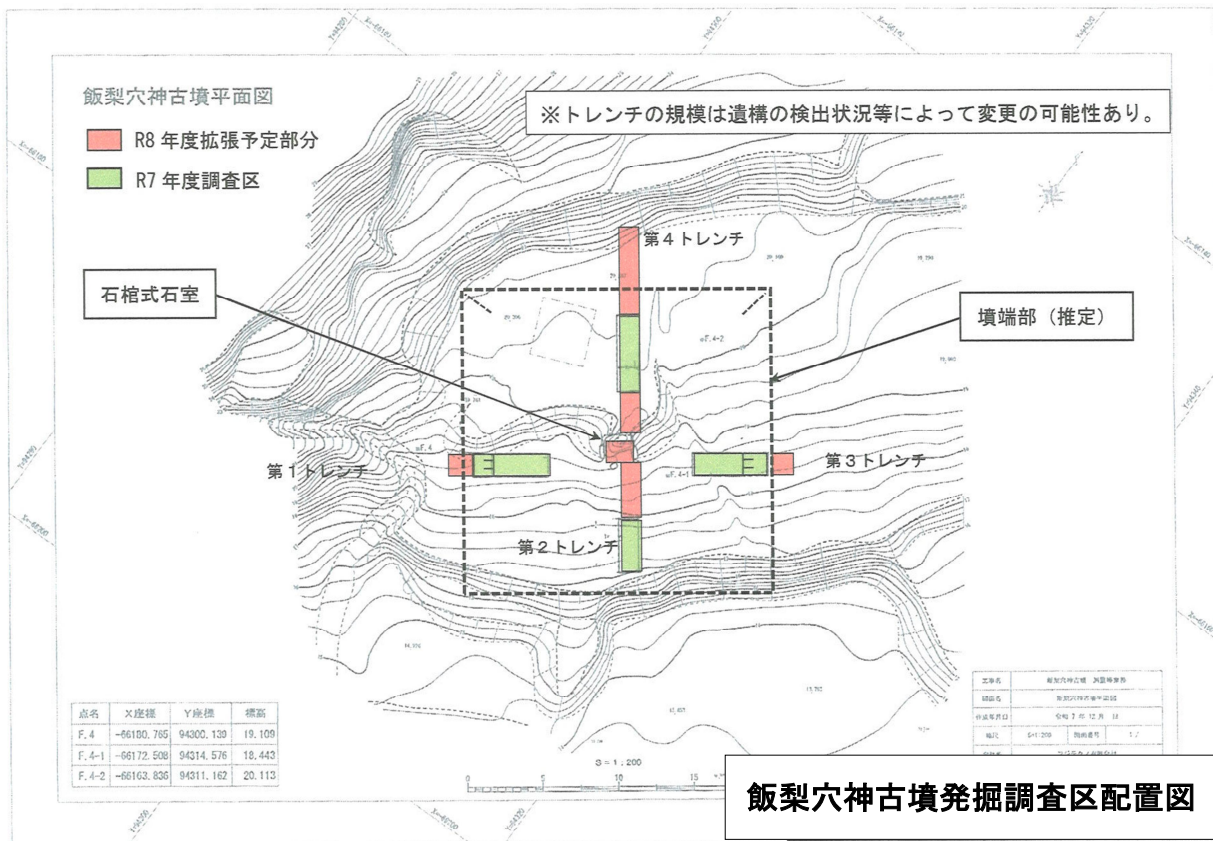
④現地説明会 令和8年9月19日（土）13：30～15：00

3. その他

【歴史文化講座】飯梨穴神古墳を取り巻く古墳文化を知る講演会を2回開催予定です。

①9月5日（土）14時～16時 安来市役所防災研修棟（安来市安来町878-1） 『安来平野の横穴墓と金銀装飾の大刀』大谷晃二氏（島根考古学会会長）

②飯梨穴神古墳発掘調査の成果報告 令和9年中（予定）





飯梨穴神古墳遠景（南東から）



飯梨穴神古墳石棺式石室（南から）

【参考】石棺式石室



国指定史跡：飯梨岩舟古墳



市指定文化財：塩津神社古墳